

2025 年 5 月 25 日 復活節第 6 主日 ヨハネ 14:23～29「わたしの平和を与える」

イエスさまは言われます。

「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。」

イエスさまのみことばとして、私たちがまず思い浮かぶのは、「神を愛しなさい。」「隣人を自分のように愛しなさい。」この二つではないでしょうか。

＜イエスはお答えになった。「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』 第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない。」＞Mk.12:29-31

しかし今も世界では、隣人との争いが、難しい問題として私たちの間に立ち塞がりします。一番恐ろしいのは戦争です。これは隣り合う国と国の間で行われる、殺し合いです。

また内戦もあります。これは同じ国の中、政府と反対勢力が暴力をもって行う戦いです。これまでも多くの場所で、わずかな文化的な違いから、戦いが生まれてきました。互いの関係が近いほど、その争いは激しくなります。

ロシアとウクライナを見ても明らかです。この二つは同じキリスト教の国です。しかも東方正教会という長い歴史を持つ教会です。それがどうして武器を持って争うのでしょうか。その理由を「ウクライナの首都であるキーウが大切な聖地なので、ロシアはそれを奪おうとしているのだ」と言う人もいます。

先週 LWF(ルーテル世界連盟)の事務局長、アンネ・ブルクハルト牧師が東京で講演会を開きました。彼女は 1975 年エストニア生まれ。2021 年女性として、また東欧出身者として初めてルーテル世界連盟事務局長になった方です。

エキュメニズム講演会—平和構築のための世界のキリスト教会の役割と使命—と題したお話は、高村牧師による通訳を交え、80 分以上に及ぶ濃い内容でした。

「これまで私たちは互いの違いに注目して議論をしてきた。これから私たちは互いの共通部分を探し出して、共に歩んで行きたい」事務局長はこのように語りました。またルーテル世界連盟が 1947 年、第二次大戦後すぐに生まれた、戦勝国も敗戦国も区別無く、スウェーデンのルンドで作られた、平和のための組織であると語られました。

これまで LWF は世界の貧しい場所や、被災した場所に経済援助を行い、病院や学校を建設して来ました。今は日本ルーテル教団も、献金を通じてこの働きに参加しています。

講演が質疑応答の時間となり、江口再起ルター研究所所長から

「ガザはどうなっていますか」

という厳しい質問がありました。そしてこれには

「LWF はアメリカの、親イスラエルに対して遠慮があるので
は？」という前置きがありました。けれど事務局長はガザで行われている LWF の病院経営と、それに対する圧迫で患者数が 40%減少している事を答えました。

次に黒い詰襟の法衣を着て、輝く十字架を下げた正教会の司祭が質問をしました。

「あなたはエストニアの方ですね。私はエストニアに感謝します。あなたの国は一番最初に、ロシアの暴力に対して非難の声を上げました。そこでお願いがあります。エストニア・ルーテル教会と、世界ルーテル連盟は、ロシア正教会に対して非難のメッセージを、出してくださいませんか」

彼の姿はとても落ちついて、威厳に満ちていました。私は 30 年近く前にエーゲ海の小島の港で見た、40 度以上ある真夏

の日差しの下で、全身を覆う黒い式服を着て立っていた、聖職者を思い出しました。

そこで会が終わった後に駆け付け話しかけました。どうしても聞いてみたかったのです。

「ウクライナのキーウが聖地なので、ロシアはそれを奪おうとしている。これは本当ですか」

すると彼は言いました。

「それは全く嘘です。彼らが望んでいるのは戦いです。ウクライナ人を悪者にして戦うのは、ただプーチンが自分を守るためです。独裁者には敵が必要だからです。」

真っ直ぐ目を見て語るその言葉に、私は胸をうたれました。当事者の方からしか聞くことのできない、真実を感じました。「いつでも呼んで下さい。私はどこでも話をします。どうぞお願いします。」

そう言われて私はただ、彼を抱きしめる事しか出来ませんでした。名刺を交換して、お名前と連絡先を知りました。けれど司祭さまの置かれている状況を、私はまだ正確に理解していません。だから今は、パウルさまとしか申し上げる事は出来ません。

これまで私は、イエス・キリストを愛する者として、絶対不戦論を貫いてきました。しかし一方的に『敵』として決めつけられて、暴力によって攻撃され続けた時、心を騒がせず、おびえず、すべてを主にお任せして、ひたすら救いを待ち望む事が、私たちに出来るでしょうか。

イエスさまが私たちに約束された、み言葉を思い返しましょう。くわたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。 > John.14:27

「世の平和」とは暴力によって勝ち取る安定です。その勝利の

元には敗れた者たちと、奪われた者たち、そして大勢の殺された者たちが横たわっています。その平和には血と涙と死があふれています。

しかしイエスさまが「わたしの平和」と言われる世界は、これとまったく違います。イエスさまの十字架によって、すべての血と涙は贖われます。死は復活へと変わります。ですから私は敵に対して怒りをもって戦うのではなく、祈りをもって赦しを願います。

神の義とは神さまによる裁きではありません。神さまによる赦しです。罪に塗れた私たちを、神さまのお力だけが、信仰により、義いものと変えて下さいます。神の名によって殺し合う愚かなまちがい、決してくり返してはなりません。

必ずイエスさまは、私たちのところに戻って来られます。その日その時を信じて、私たちは救いを祈り続けます。そしてこの世界に真の平和が来るように、嘆き悲しむ人たちのために働きます。聖霊さまのお働きが、いつもあなたがたを守られますように。

人知では計り知ることの出来ない神の平安が、キリスト・イエスにあって、あなたがたの、思いと心とを守られますように。アーメン